

令和4年度 第2回視聴覚センター運営委員会 摘録

日 時 令和5年2月17日（金） 午後1時30分～午後2時30分

場 所 京都市生涯学習総合センター 3階 会議室

出席委員 久保泰雄 委員
齊藤結 委員
下村貞之 委員
豊田まゆみ 委員
日比野和雅 委員
日吉肇 委員 五十音順

欠席委員 安食憂香 委員
金柅純子 委員 五十音順

傍 聴 人 なし

1 開会

- (1) 向井所長の挨拶
- (2) 摘録署名人に日吉委員長を選出

2 議事

- (1) 令和4年度視聴覚センター事業について（中間報告）
「令和4年度視聴覚センター事業報告」の説明を行った。
- (2) 京都市生涯学習総合センターの事業の概要
「京都市生涯学習総合センターの事業の概要」の説明を行った。

[委員からの主な質問や意見など] (○は委員、・は事務局)

- 視聴覚センターは、条例で設置が定められており、各都道府県にはなくてはならない組織である。予算が厳しい現状であるが、視聴覚センターには長年蓄積してきたノウハウや、フィルムをはじめ様々な素材という財産がある。高齢化社会の中で求められるニーズを考えたときに、それらを生涯学習に何らかの形で寄与していくことが非常に大切である。コロナが落ちついた中で、これから

利用者も増えていくと思う。「まなびすと」を見ていると、勤務している幼稚園の保護者に薦めたい内容が多く載っている。多くの予算は組めなくても、今まで実施してきた取組を今後も脈々と続けていくことが非常に大切であると思う。

来年、小学校情報教育研究会の近畿大会が生涯学習総合センターを会場として使用させていただくこと、また、中学校放送教育研究部会がアナウンスコンクールを開催できていることなど、学校もいろいろな意味で支援していただいている。

○ 約 20 年間、毎年夏の時期に、生涯学習総合センターにおいてNHK杯全国中学校放送コンテスト京都大会を開催させていただいている。今年は、京都府内の中学校が全国大会で初めて優勝することができた。また、2月5日には、京都市内の中学生が参加するアナウンスコンクールもこちらで開催させていただき、1年生と2年生が7月のNHK杯全国中学校放送コンテストにつながる大会と位置付け、自分たちのアナウンス朗読を披露した。こうした生涯学習総合センターの共催事業、視聴覚関係の講座などは一般に広く知られていないが、そこで活躍する市民の方や中学生にとっては大きな意味があるものだと思う。

○ キッズシネマが開催される日は、中央図書館にも多くの親子連れが来館されており、図書館と合わせ生涯学習として利用されていることを実感している。また、自分たちの世代では、16ミリ映写機はなじみがないものであるが、興味がある人も多いと思うので、実際に扱える講習会を若い世代に知ってもらえるよう宣伝していくことが大切である。

○ 所属する団体に「まなびすと」を送っていただいているが、余った分を知人に配ると、リタイアした人たちが興味をもって熱心に見られる。また、地域の町内会の会議などで「まなびすと」を持参して「希望の方は」と言うと、喜んで持って帰ってくださるので、非常によい内容だと思う。

高齢者の中にはスマートフォンやパソコンを使いこなせていない人が結構いて、そうした機器の操作を習得できれば明るい未来につながると思う。生涯学習総合センター山科で開催しているようなパソコン講座を、生涯学習総合センターでも開催できればよいと思う。

今年度は、こどもコンサートが開催されていないが、再開されたらキッズシネマの来場者も増えるのではないかなと思う。

○ 「まなびすと」に載っているアスニーアトリエの講座内容は更新されているか。

・ 継続して受講する方や1期だけで終了する方があるなど、講座によって受講形

態は様々である。講座の講師が、初心者向けの内容を受講した方に次のステップの内容を用意するなど、受講者の状況を見ながら内容を考えていることもある。

○ 新設した講座はあるのか。

- ・ 前期から新たに「京くみひも」の講座を開設している。また、4月からは「布絵本」を作る講座を始める予定である。

○ 一定習い終えて次のステップを探している人もいると思うので、内容が更新されると講座がさらに活気づくと思う。

放送局として、中学校放送コンテストについては、当日の協力だけでなく、準備段階で役立てることがあれば要望していただきたい。地域サービスとして勉強会やワークショップなど貢献できることがある。

○ 生涯学習総合センターは、幼児から高齢者まで幅広い年齢層が利用している。コロナに関する国の方針により、今後はマスク着用も個人の判断に委ねられていくなど社会情勢が変わる中であって、様々なニーズをもった来館者が安心して利用してもらえるよう配慮していただきたい。

○ 視聴覚センターは、生涯学習総合センターの一部であるという認識でよいのか。

- ・ 生涯学習総合センターの中に視聴覚センターが位置づけられているが、2階に生涯学習総合センターの事業を担当している事業係という所属があり、視聴覚センター事業の担当職員と一体で配置されている。例えば、講演会などで放送を使用する場合には、事業係と視聴覚担当が一体的に運営することもある。視聴覚担当の職員は、生涯学習総合センターの事業にも関わっていることから、先ほど事務局から生涯学習総合センターの事業の概要説明も行った。

○ 私たち委員は、視聴覚センターだけの委員となるのか。

- ・ 狭く考えると、視聴覚センターの委員という形となるが、視聴覚センターの事業だけでなく、生涯学習総合センターの視聴覚関係の事業についても合わせて御意見をいただければ、今後の事業運営に生かしていけるので、幅広く考えてもらえればありがたい。

○ 生涯学習総合センターにも運営委員はいるのか。

・ 生涯学習総合センターには、事業のことを相談する委員はいない。

3 閉会